

編集発行

山形県環境科学研究センター

〒995-0024 村山市楯岡笛田3丁目2番1号

TEL 0237-52-3124

FAX 0237-52-3135

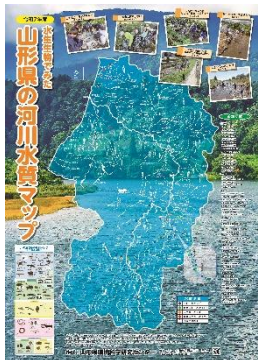
 山形県の
環境情報は
こちら！


おしらせ

水生生物による水質調査 参加者募集！

川にすむ生きものを調査することで、その川のきれいさがわかる「水生生物による水質調査」を学校や子供会、地域団体から個人まで、多くのみなさんの参加を募り、実施しています。

そして、年度末にはみなさんの調査結果を1年分まとめて「河川水質マップ」(右上図)を作成し、参加者や学校等に配布しています。



今年度もたくさん申込がきていますが、まだまだ参加者を募集しています！

近くの川に行って、冷たい川の水に触れて、隠れた生きものを探して、楽しく水環境や生きものについて学んでみませんか？

誰でも簡単にできる調査です。個人でも団体でも、お気軽にお申込みください。

身近な自然に接することで、皆さんの環境問題・環境保全への関心がより深くなることを期待しています。



きれいな川の指標生物
サワガニ



同じくカワニナ

調査に興味はあるけれど、調査のやり方がわからない…生きものの判別ができない…など不安のある方は、「職員出前講座」をご活用ください！調査方法の説明、生きものの採取・判別など、幅広くサポートします。団体だけでなく、個人の方でも出前講座の申込は可能ですので、どうぞお気軽にご相談ください。



調査期間：令和8年10月16日(金)まで
申込先：環境科学研究センター 環境企画部

※詳しくは下記の二次元コードにアクセスするか「山形県 水生生物調査」で検索してください。

調査方法の
解説動画
(YouTube)
はこちら↓



水生生物調査・
出前講座の申込
(県ホームページ)
はこちら↓



環境
三二知識

「ダイオキシン類」について知っていますか

○ダイオキシン類とは？

ダイオキシン類は、ごみを燃やすときなどに意図せずできてしまう有害物質です。毒性が強く、体に一度入ると長期間残りやすい性質があります。

そのため、国は平成11年に「ダイオキシン類対策特別措置法」という法律を作り、環境に排出される量を減らす取組みを始めました。

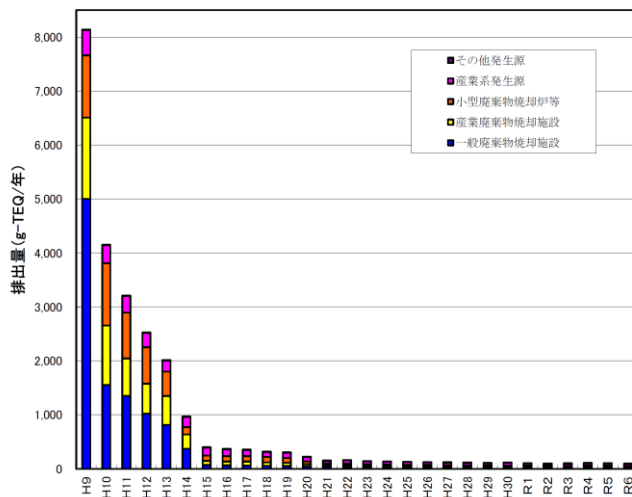
その後、ごみ焼却施設の改善等の対策が進められた結果、ダイオキシン類の排出総量は年々減少し、令和6年は法律が作られる前の平成9年と比べて約99%減少しています。

○山形県の中環境中のダイオキシン類測定結果

山形県では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づいて、毎年、環境中のダイオキシン類を測定しています。

令和7年度は、一般環境や焼却炉等の発生源周辺におけるダイオキシン類の状況を把握するため、大気、公共用水域（水質、底質）、地下水及び

図 ダイオキシン類の排出総量の推移



出典：ダイオキシン類の排出量の目録（排出インベントリー）について（環境省）

土壌について11市町の延べ40地点で測定を行った結果、全ての地点で環境基準を達成しています。

環境
三二知識

光化学オキシダントの環境基準値が変わりました

○光化学オキシダントと環境基準

光化学オキシダントは、光化学スモッグの原因となる大気汚染物質です。この濃度が上がると、目がちかちかするなどの症状が出る場合もあります。

昨年度まで、光化学オキシダントに関する環境基準は、1時間ごとの数値が0.06ppm以下と定められていました。

今年4月1日から基準が見直され、8時間の平均値が0.07ppm以下かつ、1日で最高の8時間値を年間を通して平均した値が0.04ppm以下となりました。

これは、従来の短期的な健康影響に加え、長期的な健康影響、最近の世界の動き、植物への影響などを踏まえ、長い目で見ることが必要として最新の知見をもとに定められました。

○大気汚染から皆さんを守ります！！

山形県では、山形市と分担して県内11か所で空気の汚れ具合を毎日24時間測定しています。

大気汚染物質の濃度が一定の条件を超えると、注意報を出してお知らせします。山形県で光化学オキシダントが注意報レベルに達するのはまれですが、平成21年に注意報を出したことがあります。

現在の大気汚染状況は下の二次元コード（または「山形県大気環境」で検索）から確認することができます。ぜひ一度ご覧ください。



ほっと
NEWS

高校生が環境分析の現場を体験 ～村山産業高校インターンシップ～

○インターンシップ概要

令和8年6月9日から11日までの3日間、村山産業高校の生徒1名が、当センターでインターンシップを行いました。10日には水環境部での実習が行われ、河川の現地調査及び河川水中の六価クロムの測定といった水質分析に挑戦しました。

○現地調査

午前中は当センター付近の河川2箇所では水生生物水質調査及び水質の簡易試験（パックテスト）を行いました。調査したところ、農業用水路が合流する前後の水質の変化を確認することができました。

○水質分析

午後からは、採水した試料の水質分析を行いました。六価クロムの分析では、分光光度計という装置を使って、試料の色の濃さを測定し、六価クロムの量を調べる工程を体験しました。



水質調査の様子

普段の授業では触れることのない本格的な分析機器に、やや緊張しつつも、丁寧に作業を進めている様子でした。

今回の体験が、科学や環境への関心を高めるきっかけとなることを願っています。

各部 紹介

水環境部

○水環境部の概要

水環境部では、工場・事業場の排水や最終処分場からの放流水等の検査、公共用水域や地下水の水質調査を行っています。今回は、工場・事業場排水の検査について紹介します。

○工場・事業場排水の検査

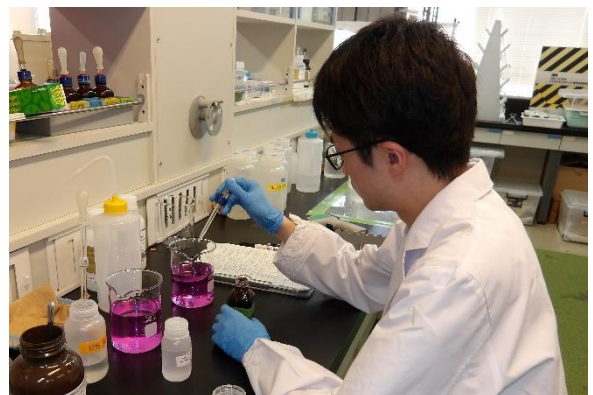
工場や事業場から河川等の公共用水域に排出される水には、法令で排水基準が定められています。

有機物による汚れの状態を示す項目（BOD）や、人の健康に害を及ぼすおそれがある有害物質（シアン、六価クロム等）を測定し、排水基準を遵守しているかどうか年間約70～80件の検査を行っています。

工場・事業場の排水には業種によって様々な物質が含まれており、これらは時に検査をする上で妨害となることがあります。そのため、事例ごとにどうすれば妨害を受けずに対象物質の検査ができるかを検討し、検査の精度を確保しています。

排水基準を超過した場合には、工場・事業場の排水処理の改善に向けて、総合支庁環境課と連携し調査を行っています。

私たちの暮らしのすぐそばにあり、何気なく目にはしている水について、安心して生活できる環境を守っていけるよう引き続き確実な検査を行います。



親子で楽しむ環境科学体験デーを開催しました

山形県環境科学研究センターでは、6月の「環境月間」の行事として、平成16年度から「親子で楽しむ環境科学体験デー」を開催しています。今年度は6月13日（土）に第1弾となる「自然観察会（春の部）」、第2弾として6月27日（土）に「センター一般公開」を行いました。

○自然観察会（春の部）

自然観察会は、最近のクマ出没のニュースを受け、急遽場所を堂ノ前公園に、午前の部のみ開催に変更し、9組24名の親子が参加しました。

植物や生き物の観察をしながら、葉の手触りや匂いを確かめたり、樹液の味をあじわったり、サクラの実を食べたり、自然の音を聴いたりと五感を使って自然を満喫しました。



池の生き物観察



森のエビフライ 正体はリスが食べた松ぼっくり

あるコーナーで色々な体験をして、科学の面白さに触れていました。

また、水生生物コーナーでは石の裏にいる生き物や水生生物の標本に興味を示したり、顕微鏡を熱心に観察する姿も見られました。

リサイクル工作のコーナーでは、作るだけでなく、作品を使った体験（PETボトルロケット、空気砲など）ができ、特に空気砲では的が倒れるたびに大きな歓声が沸き上がりました。



スライム作り



バスボム作り



PETボトルロケット



どのコーナー也大盛況！

○センター一般公開

今年度も全ての催しを自由参加制で実施し、昨年度を上回る76組221名の親子が参加しました。

当日はスライムやバスボムを作ったり、葉っぱやスーパーボールを液体窒素で凍らせたり、黒色のインクをろ紙を使って色分けするなどの科学実験を体験できるコーナーがあり、参加者は興味の

○最後に

「親子で楽しむ環境科学体験デー」参加者の皆様からは、親子で様々な実験・体験をし、「親子で楽しめた」「科学に興味がわいた」「また参加したい」といった声が多く寄せられました。今回の体験が、自然や環境、科学に関心を持つきっかけになれば幸いです。多数の御来場、ありがとうございました。



編集後記

7月末、熊本県を中心に大規模な地震が発生しました。建物、インフラへの被害は大きく、復旧まで多大な不便を強いられる住民も多いでしょう。多数の死者が出ていたであろう被害を最小化したという見方がある一方、防げる被害を防げなかったと思われる事例もあるようです。

山形県内でも複数の断層帯が近年の地震発生の危険性が高いと指摘されています。災害は忘れたころにやってくる、明日は我が身とも言います。

いつ何が起こっても、冷静に適切な行動ができる準備と心構えを備えたいものです。

環境教室受付中！

- ・リサイクル工作
- ・水の汚れしらべ など



山形県 環境教室

検索

